

**パレットの不正使用の抑制に向けた
位置情報取得の仕組み導入について
～パレットの外部流出防止に向けた取り組み～**

2025年6月2日

一般社団法人Pパレ共同使用会
アサヒビール株式会社
キリンビール株式会社
サッポロビール株式会社
サントリー株式会社

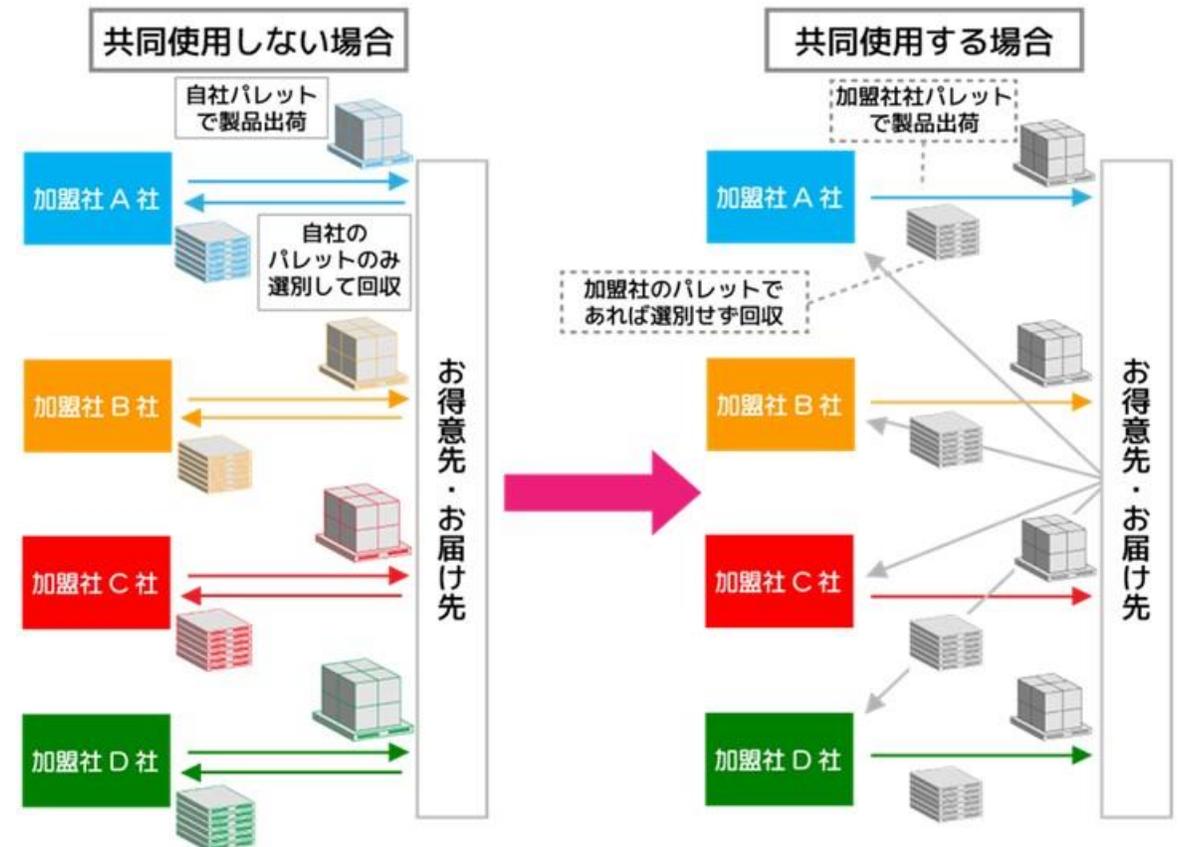
1. パレットを取り巻く背景

(1) ビール業界におけるパレットの利用状況

酒類・飲料業界では以前からビール9型プラスチックパレット(略称：Pパレ)を使用して製品を運搬しております。
1992年に共同使用を開始して以降、2013年にPパレ共同使用会として一般社団法人化し、現在は加盟社138社がそれぞれで購入したパレットの共同使用を行っております。



※いずれもPパレ共同使用会HPより



(参考) 一般社団法人Pパレ共同使用会」の概要と沿革

1984年～	プラスチックパレットがビール会社に順次投入される
1992年	ビール4社で共同使用を開始 商品のサイズが各社同じであったため共同使用が促進された
1995年	ビール4社以外の酒類メーカーに共同使用を拡大 得意先（卸）からの要望がありビール以外の酒類メーカーにも拡大したと言われている
2004年	任意団体Pパレ共同使用会設立 加盟社数 10社
2013年	Pパレ共同使用会の一般社団法人化 加盟社数 60社 加盟社の拡大による管理体制の強化ならびに、不正使用業者への法的対応などを可能とするために法人化
2014年	共通受払管理システムの導入 日本パレットレンタル（JPR）社のe-palというシステムを一部改修し利用
2019年	ビール4社間で共同回収を開始 出荷数の多い届先については4社のうちのいずれか1社が4社分の回収を担う役割分担により、トラックの運用効率を高めている
2023年	加盟社数 128社 年間4千3百万枚強の出荷・回収 1日当り平均出荷枚数：約10万枚
2024年	加盟社数 134社 新規加盟社候補社複数あり

1. パレットを取り巻く背景

(2) 物流環境の変化

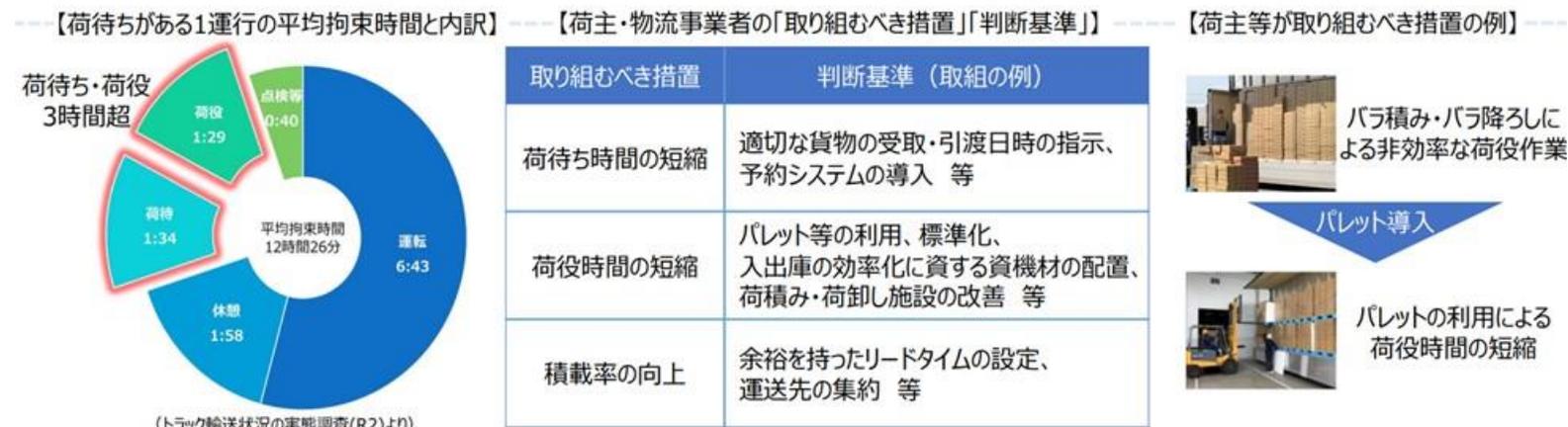
2024年4月から、トラックドライバーの時間外労働時間が960時間に上限規制され、改正改善基準告示が適用されたことから、労働時間が短くなり、輸送能力の不足が懸念されております。

(3) 物流効率化のための法改正

物流の持続的成長を図るために法制化された改正物流関連2法（物資の流通の効率化に関する法律（新物効法）・貨物自動車運送事業法）が、2025年4月1日に施行となりました。新物効法では、「荷役等時間の短縮のため」の荷主の努力義務の取り組み具体例として「パレット等の輸送用器具導入による荷役等の効率化」「一貫パレチゼーション実現のために標準仕様パレット等（※）の使用」が示されております。

すでにPパレで荷役等を行っているビール業界においても、一層の物流効率化を図るべく、限りある資源であるパレットや、トラックを有効活用してまいります。

※ビール9型パレット（Pパレ）は「その他標準化された規格に適合するパレット」として認定されております



1. パレットを取り巻く背景

(4) ビール4社によるパレット共同回収の取り組み

ビール4社では、パレット回収の効率化を実現するために、一部のお得意先様からの回収について、2018年から共同回収を実施しております。

従来は各社が製品を配送する際に、それぞれパレットを回収しておりましたが、回収するパレットがなかったりするなど、回収効率が悪く、物流環境が厳しくなる中、運用を維持するのが困難になってきました。

そこで、お得意先様毎に代表社を決めて、代表社が一括して回収することで、回収が効率化され、車両の有効活用やCO2の削減を行っております。

共同回収対象先は常に精査し、昨年も回収店の拡大を行っております。



従来はお得意先様からそれぞれの会社がパレットを回収していた。

お得意先様毎に代表社を決めて、その会社が回収を行う。

1. パレットを取り巻く背景

(5) パレット回収についての課題（外部流出）

本来当パレットは加盟社間で流通させるものですが、一部が加盟社外に流出しており不正利用がされているケースがあります。これにより、加盟社が本来投入しなくても良い新規パレットの購入を行うこととなります。

最近では不正な流出先企業がネットオークションを活用して販売するような事例も出てきており、外部流出の防止が急務となっております。

なお、この外部流出はPパレ固有の課題ではなく、パレットを購入・管理している多くのレンタル事業者・荷主・物流事業者が抱える課題となっております。

パレット外部流出（不正使用例）

農協・農家



土嚢や輸送に使用

市場（青果・水産）



農協等から流入し、場内輸送・保管に使用

ホームセンターや大手量販センター



植木鉢の陳列台に使用

グラウンド



フェンス・仕切りに使用

各種事業者（製造・物流）



不正使用者に中古パレットを売りに来る事業者の存在

ネットオークション



購入する者がいるので出品する個人、事業者が登場

1. パレットを取り巻く背景

(6) パレット共同使用に不正流出防止に関する取り組み

今までもPパレ共同使用会及びビール4社は連携して、以下の通り、不正流出の防止に取り組んで参りました。
今回新たにトラックを装着し、リアルタイムでパレットの所在地を特定することで、不正流出を更に抑制したいと考えております。

- 低回収率店への改善要請、4社共同回収店の拡大
- 悪質な事業者※1への求償
- 悪質な事業者※2への法的対応・勝訴
- 農林水産省と協働し、全国の卸売市場における不正使用防止に向けた啓発
- ネットオークションサイトの運営者との協働による不正業者の掲載削除
- 業界紙などへの不正使用抑制に向けた啓発広告の掲載及び各種メディア対応
- パレットへの警告文の印字（現行の「所有者・管理者名」および「譲渡・無断使用は一切禁止」に加え、「不正使用は違法です」の文言を追加）
- トラック装着による可視化（今回の取り組み）

※1 社名記載箇所へのペイント等による消しこみを行う事業者

※2 申し入れをするも対話・交渉にも応じない事業者



2. 新技術（トラック）を活用した流出防止について

ビール4社では2025年5月にトラック付きのパレットを導入し、Pパレの移動状況を追跡し、本来の利用場所でない場所にあるものを特定いたします。またその状況をPパレ共同使用会とも共有し、流出の防止に関する法的対応も含めた各種対応を行ってまいります。

◆導入の目的：

Pパレの流出が続くと、物流が滞る可能性があり、流出源の特定が必要となる。本来の利用場所ではない場所での利用状況を特定するために、位置情報が把握できるトラックを導入する。

◆運用開始時期：

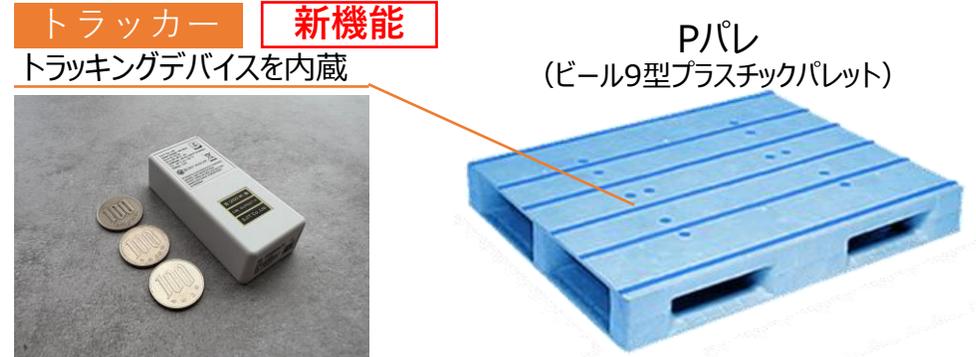
2025年5月19週～

◆運用の担い手：

Pパレ共同使用会及びビール4社

◆運用概要：

ビール各社から全国に出荷される製品を保管・配送する際に仕様するPパレの一部を、トラック付きのものに変更する。そのトラックからの位置情報を基に、流出の可能性について確認を行い、適宜対応を行っていく。

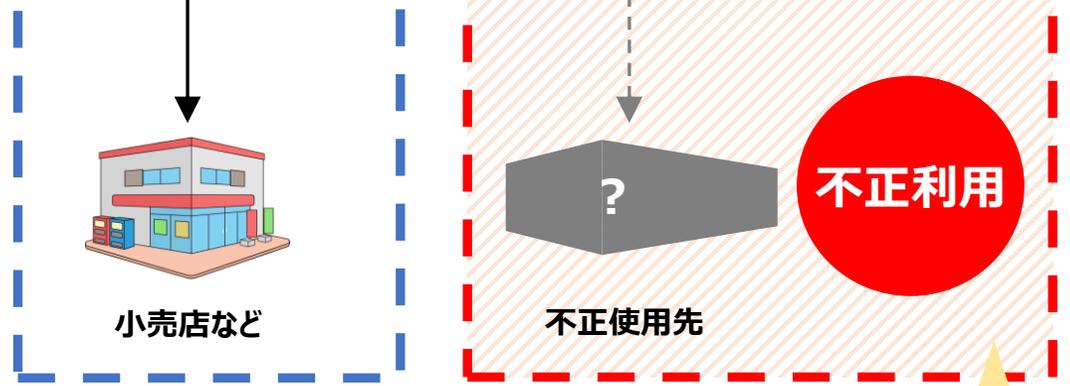
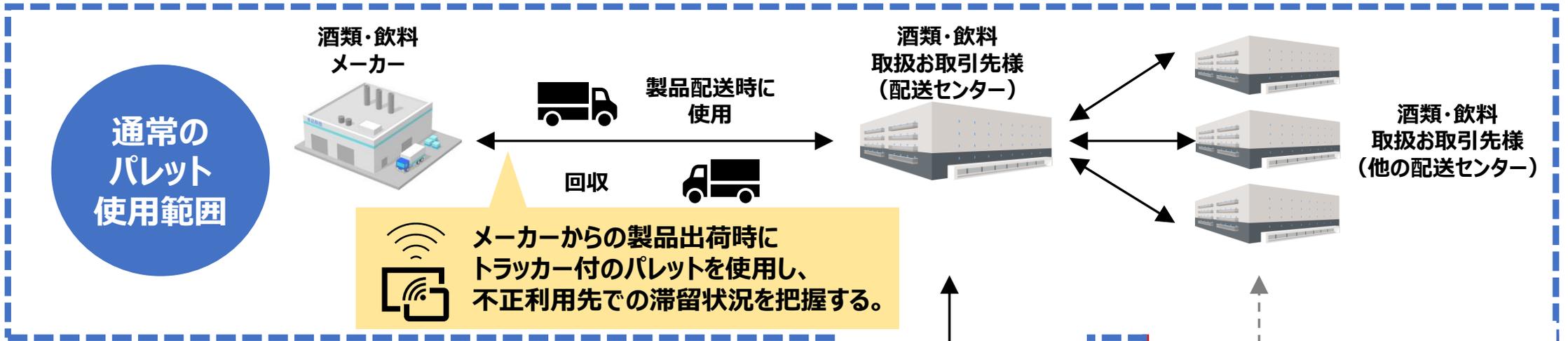


トラッキング状況

Pパレの位置情報を把握、流出拠点及び不正使用先を特定可能
(システム開発：京セラコミュニケーションシステム株式会社様)



2. 新技術（トラッカー）を活用した流出防止について



配送したセンターから更に他のセンターに転送されるうちに、その一部が外部（加盟社外）に流出している可能性がある。

本来の使用場所以外からの発信がある場合、状況確認の上不正使用の中止と返却要請活動を行う。